



# 被災地の早期復旧に向け海岸防災林を再生

東北森林管理局 仙台森林管理署

## 海岸防災林の沿革

仙台湾沿岸では、古くから海岸付近の開拓の際には、海から内陸へ吹き込む潮風や飛砂を押さえるために、森林が必要であることが経験的に知られており、仙台湾の開祖である伊達政宗がクロマツ林の整備を指示したことを契機に海岸防災林の造成が開始されました。

明治時代以降は藩有林を引き継いだ国、宮城県、市町、地域の人々の手により、海岸防災林の造成、維持管理が続けられ、東日本大震災以前には、一千ヘクタールを超える規模に至りました。

## 海岸防災林の役割と東日本大震災による被害



海岸防災林は潮害や、季節風による飛砂、風害等の海岸特有の被害を防ぐほか、防潮堤等とともに津波エネルギーの減衰効果等を持ち、農地や居住地を災害から守る等、地域の生活環境を保全する役割を果たしています。ま

1 クロマツ植樹作業



## 管内概要

仙台森林管理署は、蔵王山を有する奥羽山脈から太平洋沿岸の海岸防災林までの、宮城南部流域を森林計画区とし、5市8町に広がる国有林約5万5千ヘクタールを所管しています。

管内国有林の65パーセントは蔵王国立公園等の自然公園に指定されており、多くの観光客が訪れています。

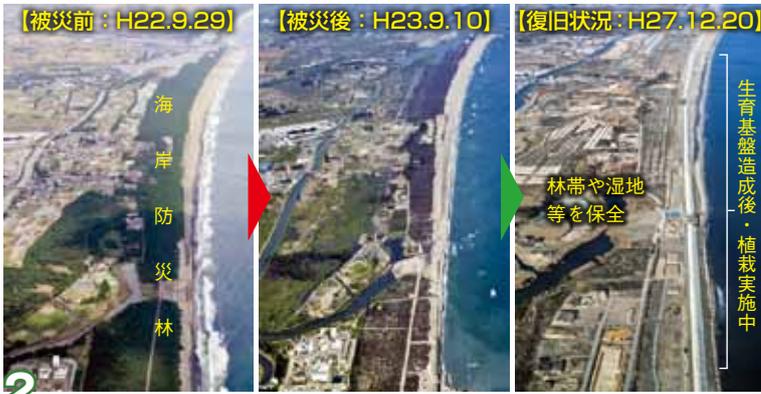
また、国有林率が高い七ヶ宿町では、市町村からの相談に対しアドバイスを行う「森林・林業コンシェルジュ」を設置し、民有林と連携した森林共同施業団地の設定等に取り組んでいます。



仙台森林管理署管内図

所在地	宮城県仙台市青葉区東照宮一丁目 15 - 1
区域面積	278,320ha
うち森林面積	163,878ha
うち国有林	55,410ha
管轄区の関係市町村	5市8町 仙台市、白石市、蔵王町ほか

署の基礎データ



2 海岸防災林の被災・復旧状況

出典：仙台河川国道事務所ホームページ (<http://www.thr.mlit.go.jp/sendai>)  
「海岸航空写真」を加工して作成



3 生育基盤の造成



4 順調に生育するクロマツ



5 高校生対象の現地見学会

生徒の皆さんが森林・林業に対する幅広い知識を得られるよう取り組んでいます。今後も、引き続き地域における海岸防災林再生の重要性を伝える取組を行いながら、海岸防災林が、再び私たちの生活を守ってくれる頼もしい存在になるよう復旧を進めていきます。

た、海岸防災林は森林レクリエーション活動の場としての機能もあり、多方面において古くから人々の生活に深く関わってきました。

しかし、東日本大震災では、巨大津波により、仙台湾沿岸で総延長約40キロメートルにわたり、内陸4〜6キロメートルまで浸水し、同沿岸の海岸防災林の多くが消失する等、甚大な被害を受けました。

このため、津波により被害を受けた宮城県の沿岸部では、震災直後から防潮堤の建設とともに、海岸防災林の復旧を進めています（写真2）。事業の実施にあたっては、地域住民等の意見を聞

きながら、沿岸部の復旧・復興工事との調整を図っています。

### 国直轄事業による海岸防災林の復旧

仙台湾地区の民有林の復旧については、宮城県知事からの要望を受け、当署が直轄事業として国有林の海岸防災林の復旧と一体的に進めています。

復旧にあたっては、当地域の海岸防災林の構成樹種であるクロマツの根の健全な成長を確保するために、盛り土をする等、生育基盤の造成を行った上で、順次、植栽を進めています。

また、春から夏は海からの風（イナサ）が、秋から冬は蔵王山からの風（ナライ）が吹くため砂が飛び、植栽した苗木を傷つけ枯らすおそれがあるため、防風柵で囲い苗木の保護を行っています。

このようにして植栽したクロマツは概ね順調に生育しています。苗木が確実に育つよう、根腐れを防ぐための排水対策を改良するなどの工夫に努めながら、平成23年から約10年間で植栽を完了することを目指して取り組んでいます（写真3・4）。

### 企業、民間団体などと協力した植栽・保育

当署が管轄する国有林の海岸防災林中でも、生育基盤の造成が完了した箇所の一部については、復旧に協力したいという全国のNPO法人、企業、民間団体等と協力して植栽や保育を行っています。

これまでに、約11ヘクタールで25団体が植栽等を行い、被災地の早期復旧に尽力しており、今後も、民間団体等と協力した活動を行っていきます（写真1）。

### 海岸防災林の再生に向けて

海岸防災林は他の防災施設と異なり、その機能を十分に発揮させるためには、木の生長にかかる50〜100年といった長い年月が必要です。このため、これからの海岸防災林の整備を担う人材を育成する観点から、柴田農林高等学校の生徒を対象とした現地見学会を昨年度から開催しています。

今年度は、生育基盤の造成が完了した箇所へ、良好な初期成長が期待されるコナナ苗を植栽した状況を見学し、海岸防災林の再生に向けた考え方やコナナ苗の植栽方法・効果について学びました（写真5）。さらに、今秋には海岸防災林に続き、立木の伐採と再造林を連続的に行う一貫作業システムの作業現場の見学も予定しており、海岸防災林のみならず、生徒の皆さんが森林・林業に対する幅広い知識を得られるよう取り組んでいます。